

12. 4. 2004

日本国特許庁  
JAPAN PATENT OFFICE

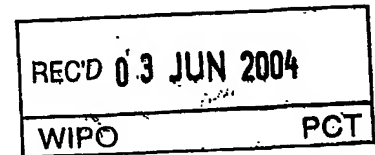
別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日  
Date of Application: 2003年 4月11日

出願番号  
Application Number: 特願2003-108456  
[ST. 10/C]: [JP2003-108456]

出願人  
Applicant(s): セイコーエプソン株式会社  
御国色素株式会社

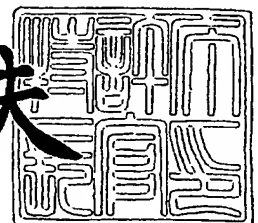


**PRIORITY  
DOCUMENT**  
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN  
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 5月20日

特許庁長官  
Commissioner,  
Japan Patent Office

今井康夫



BEST AVAILABLE COPY

出証番号 出証特2004-3042063

【書類名】 特許願

【整理番号】 J0096151

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 C09D 11/00

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和 3 丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

【氏名】 石本 文治

【発明者】

【住所又は居所】 長野県諏訪市大和 3 丁目 3 番 5 号 セイコーエプソン株式会社内

【氏名】 片岡 修一

【発明者】

【住所又は居所】 兵庫県姫路市御国野町国分寺 1 3 8 - 1 御国色素株式会社内

【氏名】 岡本 直樹

【特許出願人】

【識別番号】 000002369

【氏名又は名称】 セイコーエプソン株式会社

【特許出願人】

【識別番号】 591064508

【氏名又は名称】 御国色素株式会社

【代理人】

【識別番号】 100079108

【弁理士】

【氏名又は名称】 稲葉 良幸

【選任した代理人】

【識別番号】 100080953

【弁理士】

【氏名又は名称】 田中 克郎

【選任した代理人】

【識別番号】 100093861

【弁理士】

【氏名又は名称】 大賀 眞司

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 011903

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9808570

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 顔料分散液、及びこれを用いたインク組成物及びインクセット

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 顔料と、水性媒体と、疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂と、ウレタン樹脂と、を少なくとも含み、

前記共重合樹脂の含有量は、前記顔料 100 重量部に対して 15～40 重量部であり、

前記ウレタン樹脂の含有量は、前記顔料 100 重量部に対して 15～40 重量部である、顔料分散液。

【請求項 2】 前記共重合樹脂及び前記ウレタン樹脂は、1/2～2/1 の重量比（前者／後者）である、請求項 1 記載の顔料分散液。

【請求項 3】 前記顔料の固形分と、顔料以外の固形分と、の重量比（前者／後者）が、100/20～100/80 である、請求項 1 又は 2 記載の顔料分散液。

【請求項 4】 前記共重合樹脂の酸価は、50～320 であり、

前記ウレタン樹脂の酸価は、10～300 である、請求項 1～3 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 5】 前記共重合樹脂の重量平均分子量（M<sub>w</sub>）は、2,000～3 万であり、

前記ウレタン樹脂の重量平均分子量（M<sub>w</sub>）は 100～20 万である、請求項 1～4 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 6】 前記共重合樹脂のガラス転移温度（T<sub>g</sub>；JIS K6900 に従い測定）は、30℃以上であり、

前記ウレタン樹脂のガラス転移温度（T<sub>g</sub>；JIS K6900 に従い測定）は、-50～200℃である、請求項 1～5 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 7】 前記共重合樹脂の最大粒径が 0.3 μm 以下であり、

前記ウレタン樹脂の最大粒径が、0.3 μm 以下である、請求項 1～6 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 8】 前記顔料は、有機顔料である、請求項 1～7 の何れかに記載

の顔料分散液。

【請求項 9】 前記顔料は、混練処理された顔料である、請求項 1～8 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 10】 前記顔料は、ビーズミル又は衝突型ジェット粉碎機によって調製された顔料である、請求項 1～9 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 11】 イオン交換処理又は限外処理がなされてなる、請求項 1～9 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 12】 グリシジルエーテルを骨格とするエポキシ樹脂、又はオキサゾリン基を有する樹脂が、架橋剤として添加されてなる、請求項 1～11 の何れかに記載の顔料分散液。

【請求項 13】 前記架橋剤は、カルボキシル基と反応する樹脂である、請求項 12 記載の顔料分散液。

【請求項 14】 前記架橋剤の添加量は、前記ウレタン樹脂に対して 1～50 重量%である、請求項 12 又は 13 記載の顔料分散液。

【請求項 15】 前記架橋剤と反応した前記ウレタン樹脂の重量平均分子量 ( $M_w$ ) が 1 万以上である、請求項 14 記載の顔料分散液。

【請求項 16】 請求項 1～15 の何れかに記載の顔料分散液と、水性媒体とを少なくとも含有してなるインク組成物。

【請求項 17】 前記水性媒体が、浸透溶媒、湿潤溶媒及び／又は界面活性剤を含む、請求項 16 記載のインク組成物。

【請求項 18】 前記浸透溶媒が、アルカンジオール類及び／又はグリコールエーテル類である、請求項 17 記載のインク組成物。

【請求項 19】 前記湿潤溶媒が、多価アルコール類である、請求項 16 又は 18 記載のインク組成物。

【請求項 20】 前記界面活性剤が、アセチレングリコール類及び／又はポリシロキサン類である、請求項 17～19 の何れかに記載のインク組成物。

【請求項 21】 さらに、pH 調整剤として、アルカノールアミン類又はアルキルアミン類を含有していることを特徴とする請求項 16～20 の何れかに記載のインク組成物。

【請求項 22】 pHが8.0以上であり、顔料の最大粒子径が $0.3\mu\text{m}$ 以下であり、かつ、体積50%分散径が $0.15\text{nm}$ 以下である、請求項16～21の何れかに記載のインク組成物。

【請求項 23】 前記顔料の含有量が、10重量%以下である、請求項16～22の何れかに記載のインク組成物。

【請求項 24】 請求項16～23の何れかに記載のインク組成物を少なくとも備えてなるインクセット。

#### 【発明の詳細な説明】

##### 【0001】

##### 【発明の属する技術分野】

本発明は、記録画像の優れた光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を実現することのできる顔料分散液、インク組成物、及びインクセットに関するものであり、特にカラー画像の優れた光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を実現することのできる顔料分散液、インク組成物、及びインクセットに関する。

##### 【0002】

##### 【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】

従来から、インクジェット記録用インクや筆記具用インク等の着色剤として、その耐水性や耐光性等の堅牢性に優れることから、顔料が多数利用されている。顔料は水への溶解性がないため、インク組成物に使用する際には顔料を水中に微粒子で安定に分散することが重要である。このような顔料を着色剤とするインク組成物は一般に、顔料を水に濡れやすくし、顔料の沈降を防止する等の観点から、顔料と液媒体と分散剤からなる混合物を分散機等で分散処理を行うことにより顔料分散液を調製し、該顔料分散液に必要な応じて各種添加剤を添加して製造されている。このように、インク組成物を製造するに際して、顔料は、顔料分散液の状態として用いられることが多く、特にインク組成物とした際の特性に影響を与えることから、顔料分散液に関する種々の技術が開発されている。

##### 【0003】

しかし、これまでの顔料分散液では、インク組成物として調製した際に、それ

によって形成されるカラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性の両立を実現できていない。すなわち、これまでの顔料分散液を調整して得られるインク組成物では、カラー画像の光沢性が十分ではなく、また、吐出された顔料の粒度分布により、見る角度によって記録表面がブロンズ色に呈色する、いわゆるブロンズ化と呼ばれる現象が発生して高画質が実現できず、さらに、インク組成物の保存安定性も十分ではなかった。

#### 【0004】

従って、本発明の課題は、優れた光沢性、及びブロンズ防止性を有するカラー画像形成のための優れた保存安定性を有するインク組成物を調製することのできる顔料分散液を提供することにある。また、本発明の別の課題は、このような顔料分散液を用いて、優れた光沢性、及びブロンズ防止性を有するカラー画像を形成することのできる優れた保存安定性を有するインク組成物及びインクセットを提供することにある。

#### 【0005】

##### 【課題を解決するための手段】

本発明者等は、鋭意研究した結果、顔料と、水性媒体と、疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂と、ウレタン樹脂と、を少なくとも含む顔料分散液であって、前記共重合樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して15～40重量部であり、前記ウレタン樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して15～40重量部である顔料分散液が、前記課題を解決し得ることの知見を得た。

#### 【0006】

本発明は、前記知見に基づきなされたもので、顔料と、水性媒体と、疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂と、ウレタン樹脂と、を少なくとも含み、前記共重合樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して15～40重量部であり、前記ウレタン樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して15～40重量部である顔料分散液を提供することにより、前記課題を解決したものである。

#### 【0007】

また、本発明は、前記顔料分散液と水性媒体とを少なくとも含有してなることを特徴とするインク組成物を提供することにより、前記別の課題を解決したものである。

#### 【0008】

更に、本発明は、前記インク組成物を少なくとも備えてなることを特徴とするインクセットを提供することによっても、前記別の課題を解決したものである。

#### 【0009】

##### 【発明の実施の形態】

以下、本発明をその好ましい実施形態に基づいて詳細に説明する。

#### 【0010】

##### (顔料分散液)

本発明の顔料分散液は、顔料と、水性媒体と、疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂と、ウレタン樹脂と、を少なくとも含み、前記共重合樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して15～40重量部であり、前記ウレタン樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して15～40重量部であるものである。

このように、本発明の顔料分散液は、2種の特定樹脂を特定の含有量で含有させることにより、優れた光沢性、及びブロンズ防止性を有する画像形成のための優れた保存安定性を有するインク組成物の調製を可能とし、ひいては、記録画像の光沢性、ブロンズ防止性の他、吐出安定性、目詰まり防止性、発色安定性や銀塩に匹敵する高画質を実現したものである。本発明の顔料分散液は、上記のように記録画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立させることができ、中でも、特にブロンズ防止効果は極めて良好である。

また、本発明においては、後述するように、顔料として有機顔料を用いた場合には、特にカラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を向上させるためのインク組成物を調製することができ、ひいては、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止性の他、吐出安定性、目詰まり防止性、発色安定性や銀塩に匹敵する高画質を実現することができる。

尚、本明細書において、樹脂の重量は、全て固形分換算量を示す。



## 【0011】

上記疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂（例えば、スチレンーアクリル樹脂）は、顔料を分散させるための分散用樹脂として主に機能する。当該共重合樹脂は、顔料に吸着して分散性を向上させる。上記ウレタン樹脂は、記録画像の光沢性向上や密着性向上や経時安定性向上のための定着用樹脂として主に機能する。

疎水性モノマーの具体例としては、たとえばメチルアクリレート、メチルメタクリレート、エチルアクリレート、エチルメタクリレート、n-プロピルアクリレート、n-プロピルメタクリレート、iso-プロピルアクリレート、iso-プロピルメタクリレート、n-ブチルアクリレート、n-ブチルメタクリレート、sec-ブチルアクリレート、sec-ブチルメタクリレート、tert-ブチルアクリレート、tert-ブチルメタクリレート、n-ヘキシルアクリレート、n-ヘキシルメタクリレート、n-オクチルアクリレート、n-オクチルメタクリレート、iso-オクチルアクリレート、iso-オクチルメタクリレート、2-エチルヘキシルアクリレート、2-エチルヘキシルメタクリレート、デシルアクリレート、デシルメタクリレート、ラウリルアクリレート、ラウリルメタクリレート、ステアリルアクリレート、ステアリルメタクリレート、2-ヒドロキシエチルアクリレート、2-ヒドロキシエチルメタクリレート、2-ヒドロキシプロピルアクリレート、2-ヒドロキシプロピルメタクリレート、2-ジメチルアミノエチルアクリレート、2-ジメチルアミノエチルメタクリレート、2-ジエチルアミノエチルアクリレート、2-ジエチルアミノエチルメタクリレート、グリシジルアクリレート、グリシジルメタクリレート、アリルアクリレート、アリルメタクリレート、シクロヘキシルアクリレート、シクロヘキシルメタクリレート、フェニルアクリレート、フェニルメタクリレート、ノニルフェニルアクリレート、ノニルフェニルメタクリレート、ベンジルアクリレート、ベンジルメタクリレート、ジシクロペンテニルアクリレート、ジシクロペンテニルメタクリレート、ボルニルアクリレート、ボルニルメタクリレート、1,3-ブタンジオールジアクリレート、1,3-ブタンジオールジメタクリレート、1,4-ブタンジオールジアクリレート、1,4-ブタンジオールジメタクリレート、エチレングリコールジアクリレート、エチレングリコー

ルジメタクリレート、ジエチレングリコールジアクリレート、ジエチレングリコールジメタクリレート、トリエチレングリコールジアクリレート、トリエチレングリコールジメタクリレート、テトラエチレングリコールジアクリレート、テトラエチレングリコールジメタクリレート、ポリエチレングリコールジアクリレート、ポリエチレングリコールジメタクリレート、ネオペンチルグリコールジアクリレート、1,6-ヘキサンジオールジアクリレート、1,6-ヘキサンジオールジメタクリレート、ジプロピレングリコールジアクリレート、ジプロピレングリコールジメタクリレート、トリメチロールプロパントリアクリレート、トリメチロールプロパントリメタクリレート、グリセロールアクリレート、グリセロールメタクリレート、スチレン、メチルスチレン、ビニルトルエンなどをあげることができる。これらは、単独でまたは2種以上を混合して用いてもよい。

親水性モノマーの具体例としては、たとえばアクリル酸、メタクリル酸、マレイン酸、イタコン酸などをあげることができる。

前記疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂（以下、単に「共重合樹脂」という）は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層光沢性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、スチレンー（メタ）アクリル酸共重合樹脂、スチレンーメチルスチレンー（メタ）アクリル酸共重合樹脂、又はスチレンーマレイン酸共重合樹脂、（メタ）アクリル酸ー（メタ）アクリル酸エステル共重合樹脂、又はスチレンー（メタ）アクリル酸ー（メタ）アクリル酸エステル共重合樹脂の少なくともいずれかであることが好ましい。

前記共重合樹脂は、スチレンと、アクリル酸又はアクリル酸のエステルと、を反応して得られる重合体を含む樹脂（スチレンーアクリル酸樹脂）であってもよい。あるいは、前記共重合樹脂は、アクリル酸系水溶性樹脂であってもよい。またはこれらのナトリウム、カリウム、アンモニウム等の塩であってもよい。

上記ウレタン樹脂は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層光沢性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、ウレタン結合及び／又はアミド結合と、酸性基と、を有する樹脂であることが好ましい。

ウレタン樹脂とは、ジイソシアネート化合物と、ジオール化合物と、を反応して得られる重合体を含む樹脂である。

ジイソシアネート化合物としては、例えば、ヘキサメチレンジイソシアネート、2, 2, 4-トリメチルヘキサメチレンジイソシアネート等の芳香脂肪族ジイソシアネート化合物、トルイレンジイソシアネート、フェニルメタンジイソシアネート等の芳香族ジイソシアネート化合物、これらの変性物が挙げられる。

ジオール化合物としては、例えば、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール等のポリエーテル系、ポリエチレンアジベート、ポリブチレンアジベート等のポリエステル系、ポリカーボネート系が挙げられる。

前記ウレタン樹脂は、カルボキシル基を有することが好ましい。

#### 【0012】

前記共重合樹脂の含有量は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できるという観点からは、前記顔料100重量部に対して、好ましくは15～40重量部であり、一層好ましくは15～35重量部である。

前記ウレタン樹脂の含有量は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できるという観点からは、前記顔料100重量部に対して、好ましくは15～40重量部であり、一層好ましくは15～35重量部である。

前記共重合樹脂及び前記ウレタン樹脂の重量比（前者／後者）は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できるという観点からは、1／2～2／1であることが好ましく、1／1.5～1.5／1であることが一層好ましい。前記顔料の固形分と、顔料以外の固形分と、の重量比（前者／後者）は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、100／20～100／80であることが好ましい。

前記共重合樹脂及び前記ウレタン樹脂の合計量は、前記顔料100重量部に対して、80重量部以下（さらに好ましくは70重量部以下）となるように用いら

れることが、カラー画像の光沢性、耐ブロンズ性、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる点で好ましい。

#### 【0013】

前記共重合樹脂の酸価は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、好ましくは50～320である。

前記ウレタン樹脂の酸価は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、好ましくは10～300である。

なお、酸価は、樹脂1gを中和させるのに必要なKOHのmg量である。

#### 【0014】

前記共重合樹脂の重量平均分子量(Mw)は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、好ましくは2,000～3万であり、より好ましくは2,000～2万である。

前記ウレタン樹脂の架橋前の重量平均分子量(Mw)は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、好ましくは100～20万であり、一層好ましくは1,000～5万である。Mwは、例えば、GPC(ゲルパーミエーションクロマトグラフィー)で測定する。

前記共重合樹脂のガラス転移温度(Tg; JIS K6900に従い測定)は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、好ましくは30℃以上であり、一層好ましくは50～130℃である。

前記ウレタン樹脂のガラス転移温度(Tg; JIS K6900に従い測定)は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、好ましくは-50～200℃であり、一層好ましくは-50～100℃である。

前記共重合樹脂は、本発明の顔料分散液中において顔料に吸着している場合と、遊離している場合と、があり、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、前記共重合樹脂の最大粒径は $0.3\mu\text{m}$ 以下であることが好ましく、平均粒径は $0.2\mu\text{m}$ 以下（さらに好ましくは $0.1\mu\text{m}$ 以下）であることが一層好ましい。

前記ウレタン樹脂は、本発明の顔料分散液中において微粒子状に分散している場合と、顔料に吸着している場合と、があり、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、ウレタン樹脂の最大粒径は $0.3\mu\text{m}$ 以下であることが好ましく、平均粒径は $0.2\mu\text{m}$ 以下（さらに好ましくは $0.1\mu\text{m}$ 以下）であることが一層好ましい。

なお、平均粒径とは、顔料が実際に分散液中で形成している粒子としての分子径（体積50%径）の平均値であり、例えば、マイクロトラックUPA (Microtrac Inc. 社) を使用して測定することができる。

#### 【0015】

本発明の顔料分散液に用いられる顔料としては、無機顔料及び有機顔料を使用することができ、それぞれ単独又は複数種混合して用いることができる。前記無機顔料としては、例えば、酸化チタン及び酸化鉄の他に、コンタクト法、ファーンエス法、サーマル法等の公知の方法によって製造されたカーボンブラックが使用できる。また、前記有機顔料としては、アゾ顔料（アゾレーキ、不溶性アゾ顔料、縮合アゾ顔料、キレートアゾ顔料等を含む）、多環式顔料（例えば、フタロシアニン顔料、ペリレン顔料、ペリノン顔料、アントラキノン顔料、キナクリドン顔料、ジオキサジン顔料、チオインジゴ顔料イソインドリノン顔料、キノフラロン顔料等）、染料キレート（例えば、塩基性染料型キレート、酸性染料型キレート等）、ニトロ顔料、ニトロソ顔料、アニリンブラック等が使用できる。

#### 【0016】

顔料の具体例は、本発明の顔料分散液を用いて得ようとするインク組成物の種類（色）に応じて適宜挙げられる。例えば、イエローインク組成物用の顔料とし

ては、C. I. ピグメントイエロー 1, 2, 3, 12, 14, 16, 17, 73, 74, 75, 83, 93, 95, 97, 98, 109, 110, 114, 128, 129, 138, 139, 147, 150, 151, 154, 155, 180, 185 等が挙げられ、これらの 1 種又は 2 種以上が用いられる。これらのうち、特に C. I. ピグメントイエロー 74, 110, 128 及び 147 からなる群から選ばれる 1 種又は 2 種以上を用いることが好ましい。また、マゼンタインク組成物用の顔料としては、例えば、C. I. ピグメントレッド 5, 7, 12, 48 (Ca), 48 (Mn), 57 (Ca), 57:1, 112, 122, 123, 168, 184, 202, 209; C. I. ピグメントバイオレット 19 等が挙げられ、これらの 1 種又は 2 種以上が用いられる。これらのうち、特に C. I. ピグメントレッド 122, 202, 209 及び C. I. ピグメントバイオレット 19 からなる群から選ばれる 1 種又は 2 種以上を用いることが好ましい。また、シアンインク組成物用の顔料としては、例えば、C. I. ピグメントブルー 1, 2, 3, 15:3, 15:4, 15:34, 16, 22, 60; C. I. バットブルー 4, 60 等が挙げられ、これらの 1 種又は 2 種以上が用いられる。これらのうち、特に C. I. ピグメントブルー 15:3 及び/又は 15:4 を用いることが好ましく、とりわけ、C. I. ピグメントブルー 15:3 を用いることが好ましい。また、ブラックインク組成物用の顔料としては、例えば、ファーンエスブラック、ランプブラック、アセチレンブラック、チャンネルブラック等のカーボンブラック (C. I. ピグメントブラック 7) 類、酸化鉄顔料等の無機顔料; アニリンブラック (C. I. ピグメントブラック 1) 等の有機顔料等が挙げられる。

#### 【0017】

本発明の顔料分散液中における顔料の濃度は、後述するインク組成物を調製した際に適宜な顔料濃度 (含有量) に調整すればよいため特に制限はないが、通常、5~20 重量%である。

#### 【0018】

前記顔料は、前記共重合樹脂との混練処理がされた顔料であることがカラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに

一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点から好ましい。

あるいは、前記顔料は、未処理の顔料であっても、優れたカラー画像を形成することができる。

本発明の顔料分散液は、顔料、水性媒体、疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂、及びウレタン樹脂に、必要に応じて中和剤その他の添加剤を配合した後、公知の分散機等により分散処理することにより調製される。本発明においては、前記顔料は、ビーズミル又は衝突型ジェット粉碎機によって調製された顔料であることがカラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点から好ましい。

#### 【0019】

本発明の顔料分散液に用いられる水性媒体としては、通常、水が使用される。水としては、イオン交換水、限外ろ過水、逆浸透水、蒸留水等の純粋又は超純水を用いることが好ましい。特に、これらの水を、紫外線照射又は過酸化水素添加等により滅菌処理した水は、長期間に亘ってカビやバクテリアの発生が防止されるので好ましい。

また、本発明の顔料分散液に用いる水性媒体として、水と共に又は水とは別に、後述するインク組成物に使用される水性媒体、例えば、浸透溶媒、湿潤溶媒、界面活性剤等を用いてもよい。

#### 【0020】

本発明の顔料分散液は、イオン交換処理又は限外処理がなされていることが、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点から好ましい。

#### 【0021】

また、本発明の顔料分散液は、グリシジルエーテルを骨格とするエポキシ樹脂、又はオキサゾリン基を有する樹脂が、架橋剤として添加されていることが、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点から特に好ましい。

## 【0022】

前記架橋剤は、分散性の一層向上の観点からは、カルボキシル基と反応する樹脂（カルボキシル基攻撃型の樹脂）であることが好ましい。例えば、分子中にカルボジイミド基を有するポリカルボジイミド系、分子中にオキサゾリン基を有するオキサゾリン系、アジリジン系等が挙げられる。

前記架橋剤の添加量は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、前記ウレタン樹脂に対して1～50重量%であることが好ましい。

前記架橋剤の添加量は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層光沢性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、前記共重合樹脂及び前記ウレタン樹脂の総カルボキシ基に対して、ゲル分率が20%以上、より好ましくは35%以上であることが好ましい。

また、前記架橋剤の添加量は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層光沢性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、有効固形分重量比（架橋剤／（スチレンーアクリル酸樹脂＋ウレタン樹脂））が、好ましくは1／100～50／100であり、一層好ましくは1／100～40／100である。

前記架橋剤と反応した前記ウレタン樹脂の重量平均分子量（ $M_w$ ）は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層光沢性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、1万以上であることが好ましく、3万以上であることが一層好ましい。

## 【0023】

本発明の顔料分散液は、さらに、必要に応じて添加剤を含むことができる。

## 【0024】

（インク組成物）

本発明のインク組成物は、前述した顔料分散液と、水性媒体とを少なくとも含有してなるものである。本発明のインク組成物は、このように、前述した顔料分散液、即ち、分散剤として2種の特定樹脂を特定の重量比で含有する顔料分散液



を水性媒体とともに含むものであるため、優れた光沢性、ブロンズ防止、及び保存安定性を実現することができるものである。また、本発明においては、顔料としてカラー画像用の有機顔料を用いた場合には、特に光沢性と耐ブロンズ性が向上したカラー画像を形成することができる。

#### 【0025】

本発明のインク組成物に用いられる顔料分散液は、前述した通りであり、顔料分散液について説明した前記事項が適宜適用される。

本発明のインク組成物は、この顔料分散液に、後述する水性媒体を配合することによって得られるものであり、該顔料分散液と該水性媒体は、インク組成物中における顔料の含有量（濃度）がインク組成物中に10重量%以下、特に1.5～3.0重量%となるように配合されることが、鏡面のような光沢性が得られる点から好ましい。

#### 【0026】

本発明のインク組成物に用いられる水性媒体としては、通常、水、浸透溶媒、湿潤溶媒、界面活性剤等が用いられる。

#### 【0027】

ここで、水性媒体としての水は、前述した顔料分散液に用いられる水と同様のものが用いられ、通常、浸透溶媒、湿潤溶媒、界面活性剤等を配合した後、バランスとしてインク組成物中に含有させるものである。

#### 【0028】

また、浸透溶媒は、記録媒体への濡れ性を高めて浸透性を高める機能を有するものであり、特に浸透性向上の観点から、アルカンジオール類及び／又はグリコールエーテル類が好ましく用いられる。

アルカンジオール類としては、例えば、1,2-ペンタンジオール、1,2-ヘキサンジオール等が挙げられる。

グリコールエーテル類としては、例えば、エチレングリコールモノエチルエーテル、エチレングリコールモノブチルエーテル、ジエチレングリコールモノメチルエーテル、ジエチレングリコールモノエチルエーテル、ジエチレングリコールモノブチルエーテル、トリエチレングリコールモノメチルエーテル、トリエチレ

ングリコールモノエチルエーテル、トリエチレングリコールモノブチルエーテル等が挙げられる。

これらの浸透溶媒は、その1種又は2種以上が用いられる。

浸透溶媒は、本発明のインク組成物中に、好ましくは1～20重量%、更に好ましくは1～10重量%含有される。

#### 【0029】

また、湿潤溶媒は、インクジェット記録に用いる場合に、インクの乾燥を防いでインクジェットプリンタのヘッドでの目詰りを防止する機能を有するものであり、特にこの目詰まり防止性向上の観点から、多価アルコール類が好ましく、具体的には、エチレングリコール、ジエチレングリコール、トリエチレングリコール、ポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、プロピレングリコール、ブチレングリコール、1,2,6-ヘキサントリオール、チオジグリコール、ヘキシレングリコール、グリセリン、トリメチロールエタン、トリメチロールプロパン等が挙げられる。

また、湿潤溶媒として、尿素、2-ピロリドン、N-メチル-2-ピロリドン、1,3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、トリエタノールアミン、糖アルコール等の糖類等を用いることもできる。

湿潤溶媒は、本発明のインク組成物中に、好ましくは0.1～30重量%、更に好ましくは0.5～20重量%含有される。

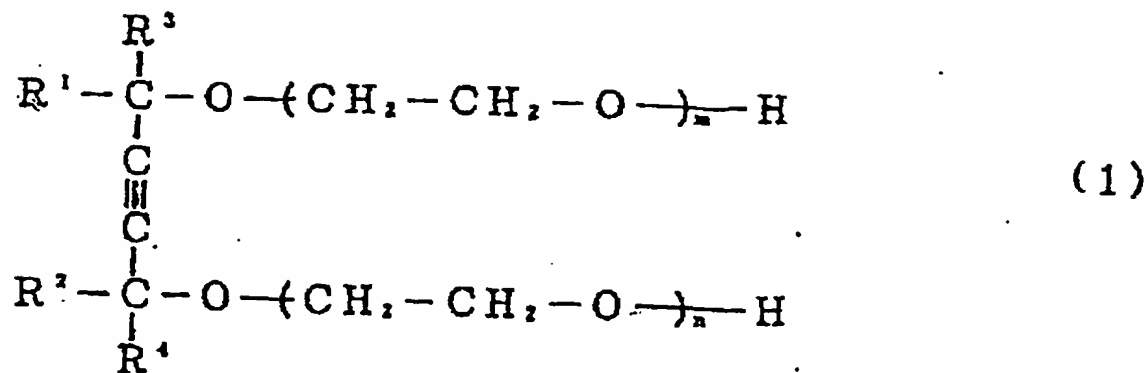
#### 【0030】

また、界面活性剤は、記録媒体への濡れ性を高めて浸透性を高める機能を有するものであり、特に浸透性向上の観点から、アセチレングリコール類及び/又はポリシロキサン類が好ましく用いられる。

アセチレングリコール類としては、例えば、下記一般式(1)で表わされるアセチレングリコール系化合物が好ましく挙げられる。

#### 【0031】

【化1】



【0032】

(式中、 $0 \leq m+n \leq 50$ 、 $R^1 \sim R^4$ は、それぞれ独立に、炭素数1～6のアルキル基を表わす。)

【0033】

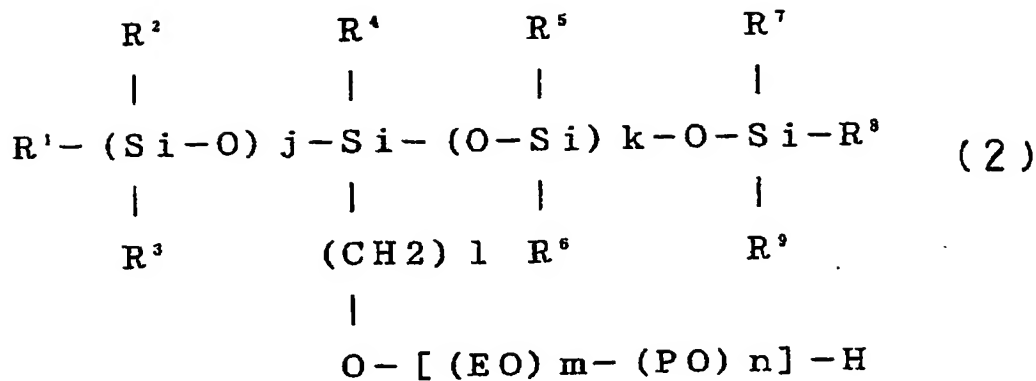
上記一般式(1)で表されるアセチレングリコール系化合物としては、市販されているものを用いることができ、例えば、オルフィンY、サーフィノール82、440、465、STG、E1010(何れも商品名、エア・プロダクツ・アンド・ケミカルズ社製)などが挙げられ、特にサーフィノール465を用いることが好ましい。

【0034】

ポリシロキサン類としては、例えば、下記一般式(2)で表わされるポリシロキサン系化合物が好ましく挙げられる。

【0035】

## 【化2】



(上記式中、

$R^1 \sim R^9$ は、独立して、 $C_{1-6}$ アルキル基を表し、

$j$ および $k$ は、独立して1以上の整数を表し、

EOはエチレンオキシ基を表し、

POはプロピレンオキシ基を表し、

$m$ および $n$ は0以上の整数を表すが、但し $m+n$ は1以上の整数を表し、

EOおよびPOは、[ ] 内においてその順序は問わず、ランダムであってもブロックであってもよい。)

## 【0036】

上記一般式(2)で表されるポリシロキサン系化合物としては、市販されているものを用いることができ、例えば、BYK348(ビッケミージャパン製)等を用いることができる。

## 【0037】

また、界面活性剤として、カチオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、ノニオン性界面活性剤等の各種界面活性剤を用いることもできる。

これらの界面活性剤は、その1種又は2種以上が用いられる。

界面活性剤は、本発明のインク組成物中に、好ましくは0.1～5.0重量%、更に好ましくは0.2～1.0重量%含有される。

本発明のインク組成物は、さらに、有機pH調整剤又は無機pH調整剤を含むことが好ましく、pH調整剤としては、アルカノールアミン類又はアルキルアミン類を用いることが特に好ましい。pH調整剤を含むことにより、インクの保存安定性を向上させるだけでなく、インクが記録媒体上で急速なpH変化すること

を防止し、光沢性を高める機能を有するものであり、特に、pH調整剤としてアルカノールアミン類又はアルキルアミン類を用いることにより、鏡面のような光沢を高めることができる。

アルカノールアミン類としては、トリエタノールアミン、モノエタノールアミン、ジエタノールアミン、ジメチルエタノールアミン、ジエチルエタノールアミン等が挙げられる。

アルキルアミン類としては、トリエチルアミン、モノエチルアミン、ジエチルアミン、ジメチルエチルアミン、ジエチルメチルアミン等が挙げられる。

これらのpH調整剤は、その1種又は2種以上が用いられる。

pH調整剤は、本発明のインク組成物中に、好ましくは0.1～5.0重量%、更に好ましくは0.3～1.5重量%含有される。

本発明のインク組成物は、カラー画像の光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を両立するとともに一層耐ブロンズ性に優れたカラー画像を形成できる観点からは、pHが8.0以上であり、顔料の最大粒子径が $0.3\mu\text{m}$ 以下であり、かつ、体積50%分散径が $0.15\text{nm}$ 以下であることが好ましい。

#### 【0038】

本発明のインク組成物には、更に必要に応じて、水溶性ロジン類等の定着剤、安息香酸ナトリウム等の防黴剤・防腐剤、アロハネート類等の酸化防止剤・紫外線吸収剤、キレート剤等の添加剤を含有させることができ、これらの1種又は2種以上が用いられる。

#### 【0039】

本発明のインク組成物は、顔料分散液を用いて調製される従来のインク組成物と同様に調製することができる。調製に際しては、メンブレンフィルターやメッシュフィルター等を用いて粗大粒子を除去することが好ましい。

#### 【0040】

本発明のインク組成物は、その用途に何等制限はなく、インクジェットプリンタ用インクやペン等の筆記具用インク等、種々のインク組成物として使用できるが、特に、ノズルからインクの液滴を吐出させ、該液滴を記録媒体に付着させて

文字や図形等の画像を形成する記録方法であるインクジェット記録方法に用いられることが好ましく、とりわけ、オンデマンド型のインクジェット記録方法に用いられることが好ましい。オンデマンド型のインクジェット記録方法としては、例えば、プリンターヘッドに配設された圧電素子を用いて記録を行う圧電素子記録方法、プリンターヘッドに配設された発熱抵抗素子のヒーターなどによる熱エネルギーを用いて記録を行う熱ジェット記録方法等が挙げられ、何れのインクジェット記録方法にも好適に使用できる。

#### 【0041】

##### (インクセット)

本発明のインクセットは、前述したインク組成物を少なくとも備えてなるものである。本発明のインクセットは、このように、前述した顔料分散液、即ち、分散剤として2種の特定樹脂を特定の重量比で含有する顔料分散液を水性媒体とともに含むインク組成物を備えるものであるため、優れた光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を実現することができるものである。また、本発明においては、顔料としてカラー画像用の有機顔料を用いた前記インク組成物を用いる場合には、特に光沢性と耐ブロンズ性が向上したカラー画像を形成することができる。

#### 【0042】

本発明のインクセットが備えるインク組成物の数や種類（色）については、特に制限されず、前述したインク組成物として、イエローインク組成物、マゼンタインク組成物、シアンインク組成物、ブラックインク組成物等のそれぞれ単独又はこれらの複数の組み合わせ等を用いることができる。特に、本発明のインクセットは、特にカラー画像の光沢性及び耐ブロンズ性を向上できることから、前記インク組成物としてイエローインク組成物、マゼンタインク組成物、シアンインク組成物等の有彩色のインク組成物を少なくとも備えることが好ましい。

#### 【0043】

本発明のインクセットは、その用途に何等制限はないが、特にインクジェット記録方法に用いられることが好ましく、その用途については前述したインク組成物の用途と同様である。

### (顔料分散液の製造方法)

本発明の顔料分散液の製造方法は、未処理若しくは混練処理によって顔料粒径を微細化しかつ均一化する前処理工程と、疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂を添加した後、ビーズミル又は衝突型ジェット粉碎機を用いて、顔料を分散させる分散工程と、さらにウレタン樹脂及び架橋剤を添加し、架橋処理する後処理工程と、を含むことが好ましい。

前処理工程の後、分散工程の前に、顔料にアルカリ性化合物を加えて中和処理を行うことが好ましい。

分散工程は、上述のようにビーズミル又は衝突型ジェット粉碎機により分散処理することが好ましい。ビーズミルは、微細化可能タイプ又は通常タイプのいずれでもよい。分散処理条件を適宜調整して、上記共重合樹脂が上記の好ましい粒径となるまで分散処理を行う。分散処理においては、必要に応じて、有機溶剤を添加して混練してもよい。本工程によって、上記共重合樹脂が顔料の表面にしっかりと定着する。

分散工程の後に、イオン交換処理や限外処理による不純物除去工程を経て、その後後処理工程をすることが好ましい。イオン交換処理によって、カチオン、アニオンといったイオン性物質（2価の金属イオン等）を除去することができ、限外処理によって、不純物溶解物質（顔料合成時の残留物質、分散液組成中の過剰成分、有機顔料に吸着していない樹脂、コンタミ成分等）を除去することができる。イオン交換処理は、公知のイオン交換樹脂を用いる。限外処理は、公知の限外ろ過膜を用い、通常タイプ又は2倍能力アップタイプのいずれでもよい。

後処理工程では、ウレタン樹脂及び架橋剤を添加して架橋反応を行わせることにより、上記共重合樹脂とウレタン樹脂とが、架橋剤によって架橋され、顔料の表面を被覆し（カプセル化）、経時安定性向上、低粘度化、密着性向上を促し、顔料分散液を安定化させる。

### 【0044】

以上詳述したように、本発明についてその好適な実施形態に基づき説明したが、本発明は前述の実施形態に制限されず、その趣旨を逸脱しない範囲内で種々の変更が可能である。

また、本発明によれば、前述した顔料分散液、インク組成物及びインクセットを使用した優れた記録方法（特に、インクジェット記録方法）や、それらによって得られる良好な記録物を提供することもできる。

#### 【0045】

##### 【実施例】

以下に、本発明の実施例及び試験例を挙げて、本発明をより具体的に説明するが、本発明は、かかる実施例により何等制限されるものではない。尚、特に断りのない限り、配合の割合（%、部）及び比は、それぞれ重量%、重量部及び重量比を示す。

#### 【0046】

以下のようにして実施例に係る顔料分散液①～⑥、及び比較例に係る顔料分散液⑦～⑨を調整した。

（顔料分散液①；イエロー）

以下に示す配合物①-1を加圧ニーダーに仕込み、室温で10時間混練し、顔料混練物を作成した。

	重量部
配合物①-1	
C.I. ピグメントイエロー74	20
スチレン-メチルスチレン-アクリル酸共重合体	6
（酸価160、重量平均分子量8000、ガラス転移温度75度）	
グリセリン	15
イソプロピルアルコール	4
顔料混練物	45

次に、以下に示す各成分を攪拌機に仕込み、95度で2時間過熱攪拌し、顔料分散前調整液を作成した。

	重量部
前記顔料混練物	45
中和剤：トリエタノールアミン	3



イオン交換水

55

顔料分散前調整液

103

次に、この顔料分散前調整液を微細化可能ビーズミル（50nmの有機顔料微粒子生成能力を有する）に逐次、前記分散前調整液を仕込み、3パス処理して、顔料分散後調整物を作成した。

次に、前記分散後調整物を水酸化ナトリウムで、PH8.5に調整し、25000Gで5分間遠心処理して、粗大粒子を除去し、顔料分散後再調整物を作成した。前記分散後再調整物は、固形分26.0% pH8.3、顔料粒子径（体積50%分散径）は、100nm以下であった。

次に、下記配合物①-2を攪拌機に仕込み、90度で5時間攪拌して、分散液中の樹脂を架橋させ、架橋済み調整物を得た（以後、架橋工程という）。前記架橋済み調整物のpHは、約8であった。さらに、顔料固形分濃度が10%かつ、PH約9になるように、イオン交換水と水酸化カリウムで調整し、顔料分散液①を作成した。得られた顔料分散液①は、仕込み理論量として、顔料100部に対してスチレン-メチルスチレン-アクリル酸共重合体が約30部であり、ポリエステル系ポリウレタン樹脂が約30部であった。

	重量部
配合物①-2	
前記分散後再調整物	103
ポリエステル系ポリウレタン樹脂（固形分30%）	20
（酸価50、トリエチルアミン中和）	
架橋剤：20%グリシジルエーテルを骨格とするエポキシ樹脂	16
（エポキシ当量200）	
架橋済み調整物	139

（顔料分散液②；マゼンタ）

以下に示す配合物②-1を加圧ニーダーに仕込み、室温で10時間混練し、顔料混練物を作成した。

配合物②-1	重量部
C.I.ピグメントバイオレット19	20
スチレン-メチルスチレン-アクリル酸共重合体	4
(酸価160、重量平均分子量8000、ガラス転移温度75度)	
グリセリン	15
イソプロピルアルコール	4
顔料混練物	43

顔料分散前調整液と顔料分散後調整物と分散後再調整物は、顔料分散液①と同様に作成した。次に、下記配合物②-2を攪拌機に仕込み、90度で5時間攪拌して、分散液中の樹脂を架橋させ、架橋済み調整物を得た。前記架橋済み調整物のpHは、約8であった。さらに、顔料固形分濃度が10%かつ、pHが約9になるように、イオン交換水と水酸化カリウムで調整し、顔料分散液②を作成した。得られた顔料分散液②は、仕込み理論量として、顔料100部に対してスチレン-メチルスチレン-アクリル酸共重合体が約20部であり、ポリエーテル系ポリウレタン樹脂が約20部であった。

配合物②-2	重量部
前記分散後再調整物	100
ポリエーテル系ポリウレタン樹脂(固形分20%)	20
(酸価50、トリエチルアミン中和)	
架橋剤: 20%グリシジルエーテルを骨格とするエポキシ樹脂	16
(エポキシ当量200)	
架橋済み調整物	136

(顔料分散液③; シアン)

以下に示す配合物③-1を加圧ニーダーに仕込み、室温で10時間混練し、顔料混練物を作成した。

配合物③-1	重量部
C.I. ピグメントブルー15:3	20
スチレン-メチルスチレン-アクリル酸共重合体	8
(酸価160、重量平均分子量8000、ガラス転移温度75度)	
グリセリン	15
イソプロピルアルコール	4
顔料混練物	47

顔料分散前調整液と顔料分散後調整物と分散後再調整物と架橋済み調整物は、顔料分散液①と同様に作成した。さらに、下記配合物③-2を攪拌機に仕込み、90度で5時間攪拌して、分散液中の樹脂を架橋させ、架橋済み調整物を得た。さらに、顔料固形分濃度が10%かつ、pHが約9になるように、イオン交換水と水酸化カリウムで調整し、顔料分散液③を作成した。得られた顔料分散液③は、顔料100部に対してスチレン-メチルスチレン-アクリル酸共重合体が約40部であり、ポリカーボネイト系ポリウレタン樹脂が約40部であった。

配合物③-2	重量部
前記分散後再調整物	100
ポリカーボネイト系ポリウレタン樹脂 (固形分20%)	40
(酸価50、トリエチルアミン中和)	
架橋剤: 20%グリシジルエーテルを骨格とするエポキシ樹脂	16
(エポキシ当量200)	
架橋済み調整物	156

(顔料分散液④; イエロー)

顔料分散液②のポリエーテル系ポリウレタン樹脂をポリカーボネイト系ウレタン樹脂に変更し、仕込み重量部を4に変更し、さらに、顔料をC. I. ピグメントイエロー74に変更した以外は、顔料分散液②と同様にして、顔料分散液④を作成

した。得られた顔料分散液④は、顔料100部に対してスチレンーメチルスチレンーアクリル酸共重合体が約20部であり、ポリカーボネイト系ポリウレタン樹脂が約20部であった。

(顔料分散液⑤；マゼンタ)

顔料分散液②のスチレンーメチルスチレンーアクリル酸共重合体の仕込み重量部を8に変更し、さらに、ポリエーテル系ポリウレタン樹脂をポリエステル系ウレタン樹脂に変更した以外は、顔料分散液②と同様にして、顔料分散液⑤を作成した。得られた顔料分散液⑤は、顔料100部に対してスチレンーメチルスチレンーアクリル酸共重合体が約40部であり、ポリエステル系ポリウレタン樹脂が約20部であった。

(顔料分散液⑥；シアン)

顔料分散液③の架橋剤をオキサゾリン系架橋剤（オキサゾリン当量200）に変更し、さらに、仕込み重量部を8に変更した以外は、顔料分散液③と同様にして、顔料分散液⑥を作成した。得られた顔料分散液⑥は、顔料100部に対してスチレンーメチルスチレンーアクリル酸共重合体が約20部であり、ポリカーボネイト系ポリウレタン樹脂が約20部であった。

(顔料分散液⑦～⑨；イエロー、マゼンタ、シアン)

顔料分散液①の顔料をそれぞれC.I. ピグメントイエロー74、C.I. ピグメントバイオレット19、C.I. ピグメントブルー15：3に変更し、顔料分散前調整液と顔料分散後調整物と分散後再調整物は、顔料分散液①と同様に作成した。それぞれ、架橋工程を実施せずに、顔料固形分濃度が10%かつ、pHが約9になるように、イオン交換水と水酸化カリウムで調整し、顔料分散液⑦～⑨（イエロー、マゼンタ、シアン）を作成した。

上記の顔料分散液①～⑥を用いて、表1のように実施例に係るインク組成物を調整した。

【表1】

実施例	Yellow (1)	Magenta (1)	Cyan (1)	Yellow (2)	Magenta (2)	Cyan (2)
	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)
TEA	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90
1,2-HD	7.00	10.00	0.00	10.00	0.00	7.00
TEGmBE	3.00	0.00	10.00	0.00	10.00	3.00
純水量	59.10	69.10	74.10	59.10	69.10	74.10
顔料分散液①	30.00					
顔料分散液②		20.00				
顔料分散液③			15.00			
顔料分散液④				30.00		
顔料分散液⑤					20.00	
顔料分散液⑥						15.00
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

実施例	Yellow (3)	Magenta (3)	Cyan (3)
	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)
Gly	15.50	15.00	12.50
TEA	0.90	0.90	0.90
1,2-HD	3.00	3.00	3.00
TEGmBE	7.00	7.00	7.00
BYK348	0.30	0.30	0.30
E1010	0.10	0.10	0.10
プロキセル XL2	0.30	0.30	0.30
EDTA	0.02	0.02	0.02
ベンゾトリアゾ ール	0.05	0.05	0.05
純水量	72.93	73.43	6.23
顔料分散液①	70.00		
顔料分散液②		70.00	
顔料分散液③			70.00
合計	100.00	100.00	100.00

上記の顔料分散液⑦～⑨を用いて、表2のように比較例に係るインク組成物を調整した。

【表2】

比較例	Yellow (4)	Magenta (4)	Cyan (4)	Yellow (5)	Magenta (5)	Cyan (5)
	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)	配合率 (%)
Gly	15.50	15.00	12.50	15.50	15.00	12.50
TEA	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90	0.90
1,2-HD	7.00	10.00	0.00	3.00	3.00	3.00
TEGmBE	3.00	0.00	10.00	7.00	7.00	7.00
BYK348	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
E1010	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
プロキセルXL2	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30	0.30
EDTA	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
ベンゾトリアゾール	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
純水量	42.93	53.43	61.23	2.93	3.43	6.23
顔料分散液⑦	30.00			70.00		
顔料分散液⑧		20.00			70.00	
顔料分散液⑨			15.00			70.00
合計	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00	100.00

## 〔試験例〕

上記実施例または比較例に記載のインク組成物をインクジェットプリンタ（セイコーエプソン株式会社製；PM900C）に充填し、インクジェット専用紙（セイコーエプソン株式会社製；PM写真用紙）に対して、720×720dpiにてduty8.0%（インク重量は、10～11mg/inch<sup>2</sup>）で印刷を行った。

なお、「duty」とは、下式で算出される値である。

$$\text{duty}(\%) = \text{実印刷ドット数} / (\text{縦解像度} \times \text{横解像度}) \times 100$$

(式中、「実印刷ドット数」は単位面積当たりの実印刷ドット数であり、「縦解像度」および「横解像度」はそれぞれ単位面積当たりの解像度である。100% dutyとは、画素に対する単色の最大インク重量を意味する。)

(光沢付与性の評価)

前記各印刷物について、村上色彩技術研究所社製「GP-200」を用い、12V50W、入射光束絞り $\phi$ 1mm、反射光束絞り $\phi$ 1.5mm、ND10フィルター、入射角度45度、煽り角度0度で、標準鏡面板を42.5として、光沢度を測定した。前記評価色についての光沢度の最高値の平均値を求め、これを平均光沢度とした。平均光沢度の値によって、以下のように光沢付与性を評価した。

- AA：平均光沢度が50以上
- A：平均光沢度が40以上、50未満
- B：平均光沢度が30以上、40未満
- C：平均光沢度が20以上、30未満
- D：平均光沢度が10以上、20未満
- E：平均光沢度が10未満

(ブロンズ性の評価)

実施例に記載のインク組成物をプリンタPM-900C（セイコーエプソン株式会社製）に充填し、PM写真用紙（セイコーエプソン株式会社製）にベタパターンを印刷した。光源を記録面と45°をなすように設置し、光源から正反射をなす位置から観察したときのブロンズの程度を以下の基準で判定した。

- A：ブロンズがほとんどない
- B：明らかにブロンズがある
- C：ブロンズが著しい

光沢付与性及びブロンズ性の評価結果を表3に示す。

【表 3】

実施例	Yellow (1)	Magen ta (1)	Cyan (1)	Yellow (2)	Magen ta (2)	Cyan (2)	Yellow (3)	Magen ta (3)	Cyan (3)
光沢性	A	A	A	A	A	A	C	C	C
ブロンズ	A	A	A	A	A	A	A	A	A

比較例	Yellow (4)	Magen ta (4)	Cyan (4)	Yellow (5)	Magen ta (5)	Cyan (5)
光沢性	A	A	A	C	C	C
ブロンズ	B	B	B	B	B	B

表3に示すように、実施例に係るインクは、比較例に係るインクに比べて、優れた光沢性及び耐ブロンズ性を与えることが分かった。

【0047】

#### 【発明の効果】

本発明によれば、優れた光沢性、及びブロンズ防止性を有する画像形成のための優れた保存安定性を有するインク組成物を調製することのできる顔料分散液、並びに優れた光沢性、ブロンズ防止性、及びインク組成物の保存安定性を実現することのできるインク組成物及びインクセットが提供される。

また、本発明の顔料分散液並びにインク組成物は、吐出安定性及び目詰り防止性においても優れており、また、高画質を実現することができるものである。



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は、優れた光沢性、ブロンズ防止、及びインク組成物の保存安定性を実現することのできる顔料分散液、インク組成物、及びインクセットを提供することを課題とする。

【解決手段】 本発明は、顔料と、水性媒体と、疎水性モノマーと親水性モノマーとの共重合樹脂と、ウレタン樹脂と、を少なくとも含み、前記共重合樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して20～40重量部であり、前記ウレタン樹脂の含有量は、前記顔料100重量部に対して20～40重量部である、顔料分散液、及び、前記顔料分散液と水性媒体とを少なくとも含有してなることを特徴とするインク組成物、及び、前記インク組成物を少なくとも備えてなることを特徴とするインクセットを提供することにより、前記課題を解決したものである。

。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号

特願 2003-108456

受付番号

50300606518

書類名

特許願

担当官

第六担当上席

0095

作成日

平成15年 4月14日

<認定情報・付加情報>

【提出日】

平成15年 4月11日

次頁無

特願 2003-108456

出願人履歴情報

識別番号

[000002369]

1. 変更年月日

1990年 8月20日

[変更理由]

新規登録

住 所

東京都新宿区西新宿2丁目4番1号

氏 名

セイコーエプソン株式会社

特願 2003-108456

出願人履歴情報

識別番号

[591064508]

1. 変更年月日

1991年 4月 1日

[変更理由]

新規登録

住所

兵庫県姫路市御国野町国分寺138-1

氏名

御国色素株式会社

**This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning  
Operations and is not part of the Official Record**

**BEST AVAILABLE IMAGES**

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:

- ☐ BLACK BORDERS
- ☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- ☐ FADED TEXT OR DRAWING
- ☒ BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING
- ☐ SKEWED/SLANTED IMAGES
- ☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS
- ☐ GRAY SCALE DOCUMENTS
- ☒ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT
- ☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY
- ☐ OTHER: \_\_\_\_\_

**IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.**

**As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.**